



海洋生命・分子工学セミナー
DC セミナー

撲滅するためにC型肝炎ウイルスを知る ～ トランスレーショナルリサーチ ～

講師： 森 京子 先生

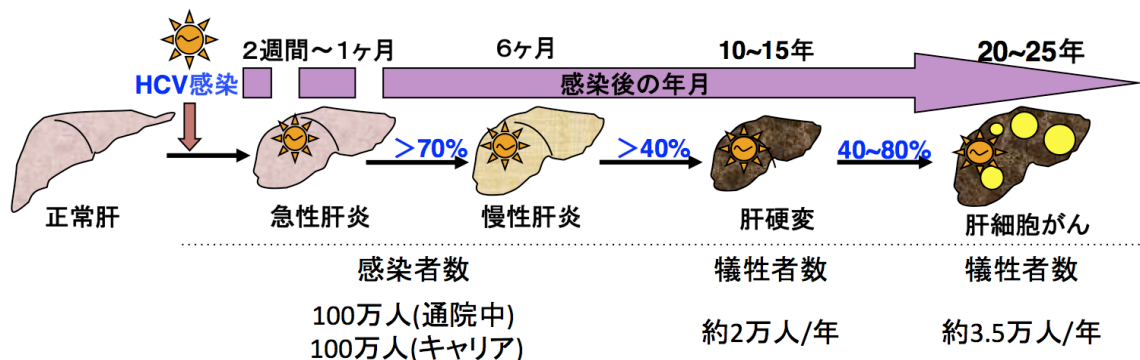
(岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 腫瘍ウイルス学)

日時： 12月3日(月) 16:00～

(日時が変更になっています！ ご注意ください！)

場所： 総合研究棟2階・会議室3

C型肝炎ウイルス(HCV; hepatitis C virus)



C型肝炎ウイルス(HCV)は、肝臓がんの主な原因ウイルスである。HCVはヒトに感染すると急性肝炎を起こして、7割以上の患者で慢性化しC型慢性肝炎を引き起こすことが明らかになっている。現在のC型慢性肝炎の治療薬はインターフェロンとリバビリンの2剤併用、または昨年承認された新薬であるHCVのプロテアーゼタンパク質(NS3-4A)の阻害剤との3剤併用である。これらの治療薬は、基礎研究でHCVの生活環を知ることにより開発された。さらに、A型やB型肝炎ウイルスの発見には免疫学的手法が用いられたのとは異なり、HCVは分子生物学的手法を用いて発見された経緯がある。「新薬の開発」や「HCVの発見」からも分かるように、現在のHCVの臨床は、基礎研究の努力が実を結んだ結果だと言える。現在の私の研究は、C型慢性肝炎の治療薬であるリバビリンの作用機序、およびリバビリンに対する感受性の違いについて研究して、臨床への応用を考えている。本セミナーでは、HCVの基礎研究の歴史を辿り、その中で臨床へ応用されたトランスレーショナルリサーチを中心に紹介して、応用まで見据えた基礎医学研究の大切さを伝えたい。

現在、私は岡山大学で助教をしています。今後、製薬会社の研究職に就くことが決まっています。アカデミアや企業への進路で悩んでいる場合は、セミナー中はもちろん、セミナーが終わった後も話ができますので、声をかけてください。何かのきっかけとなれば嬉しいです。

セミナーに関するお問い合わせは藤原(tatataa@kochi-u.ac.jp)まで